

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立羽津中学校

校長 北村 浩久

1 コミュニティスクール(運営協議会)のねらい

- (1) 開かれた学校づくりをめざし、地域・保護者とともに協働できる学校にするために、協議会を設置し、様々な視点からの意見や考えを交流しあいながら、地域コミュニティづくりを推進する。
- (2) 教育活動を学校評価に基点を置いたものとする。そのために、これまでの学校関係者評価をより充実させるとともに、その評価等を参考に改善に努め、保護者や地域の方々の思いや願いを反映した学校づくりを推進する。
- (3) 学習支援をはじめとして、様々な教育活動に保護者や地域の方々との活動を継続・発展させ、「地域全体で子どもを育てよう」とする気運を高め、「地域とともにつくる学校」の推進を図る。

2 コミュニティスクール(運営協議会)の実践について

(1)教育活動の実践事例

① 伝統行事の「山のコンサート」を3年ぶりに開催

本校の伝統行事「山のコンサート」は、1998年に本校近くの垂坂公園羽津山緑地が整備されたことを機に、本校の伝統である合唱を、地域の方々に聴いていただくという目的で、野外でのコンサートとして実施したものである。以来、当コンサートは地域の方々にも愛され、今回で23回目となった。



本年度開催できたことで、「山のコンサート」が始まって以降の生徒は、垂坂公園で1度は歌った経験をして卒業している。「山のコンサート」に中学生として参加し、運営に携わった経験のある生徒が途切れず、地域の伝統行事をつなぐことができた。今後も、内容を精査しながら、伝統が途切れることなく続けていきたい。

また、コミュニティスクール運営協議会委員とPTAの保護者が、垂坂公園羽津山緑地への移動の際、安全確保と共に子ども達にあたたかい言葉かけを行っていただいた。また、本年度は感染症対策を講じての実施のため、地域の方への積極的な案内は行えなかったが、地域の方からも再開したことへの喜びの声をいただいている。

② 地域主催の「いのちの授業」

いしが在宅クリニック理事長の石賀丈士先生を講師にお招きし、3年生を対象に「いのちの授業」と題した講演会を実施した。この講演会は、羽津地区まちづくり推進協議会の人権教育部会のご協力により実施することができた。講演では、クリニックを開業したきっかけやこれまでのご経験をまじえて、わかりやすく終末期の医療、家で看取る重要性などについてお話をしていただいた。子どもたちにとって、「いのち」とは何か、「生きる」とはどういうことか等について深く考える、貴重な学習の機会となった。



③ キャリア講演会 「その道のプロに聞く」

キャリア学習の一環として、「その道のプロに聞く」と題し、10業種の方に来ていただき、ブースに分かれて少人数のなかで話をしていただいた。その業種への質疑応答や実演もあり、生徒が自分の興味に合わせて聞くことができ、自分の進路について考えるきっかけとなった。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

自治会・まちづくり関係者、地域関係諸団体役員、PTA 役員等の保護者代表を加えた8名体制でコミュニティスクールを実施し2年目となった。年間5回の会議を実施し、保護者や地域住民の学校教育活動への参画のあり方を協議した。年度当初には「学校づくりビジョン」についての説明を行い、教育目標・めざす子どもの姿・めざす学校の姿について協議を行い、理解を求めるとともに、学校教育に対する地域の協力を依頼し、学校づくりの基本方針や計画等について共有を図ることができた。

本年度もコロナ禍でのため、まだまだ活動に限があり、読書活動など

3 今後に向けて

コミュニティスクールが始まり2年目となった。コロナ禍のため、まだまだ活動に制限があり、本校の伝統行事である「山のコンサート」の開催についても判断が難しい状況であった。しかし、地域の行事がすべて開催され、そこの様子を教えていただけたことで開催に踏み切ることができた。またdネオ姿おwの方をゲストティーチャーにお迎えして実施する予定であった福祉体験、読み聞かせ、除草作業等が中止となった。来年度は、感染症対策を講じながら、少しでも生徒の体験を含む活動が実施できるよう計画的に進めていきたい。